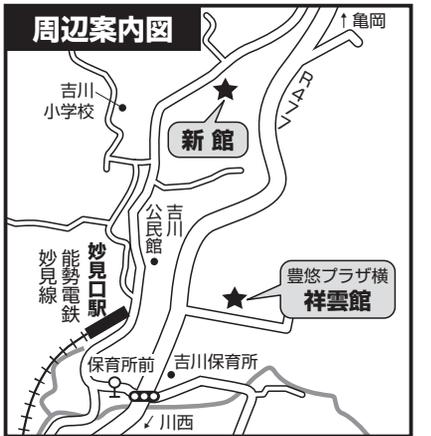




第42号  
発行  
平成21年5月10日

**祥雲館**  
社会福祉法人 桃林会  
〒563-0101  
大阪府豊能郡豊能町吉川187-1  
TEL:072-733-2301  
FAX:072-733-2303



# 利用者の主体性を引きだしたい

ここ数年間で、介護に対する理論や方法が、変わってきています。その介護に対する変化は、介護を必要とされる方の主体性を、いかにして引き出すかが根底にあります。主体性を引き出すという取り組みは、今年度の祥雲館の重要な取り組みの一つです。

「主体性」とは何を意味するのでしょうか？主体性とは、自分自身の意志や判断に基づいて行動を決定することを指します。普段、私たちは意識しませんが、あらゆる生活の場面で主体性を発揮して暮らしています。主体性の発揮には、自分の未来への希望と今の自分を大切に思う気持ち、自由に行動できる環境の3つ

の要素が必要です。しかし、認知症や障害を持たれた高齢者には、この3つの要素がなかなか揃わないのが現状です。障害や認知症をきっかけとして、生きる希望を失った方や人前に出ることを嫌う方、環境が整わないばかりに寝たきりになってしまった方などの事例を、しばしば目にします。

私たち祥雲館ができることは、主体性を発揮しやすい利用者の環境づくりだと考えています。利用者が「選ぶ」場面を増やすことが、主体性を引き出すことにつながります。選ぶということとは、選べる環境が確保され、自分を認め未来への希望があれば、不可能だからです。それが、「その人らし

い生活」へつながると考えます。

## ショートで引き出す

祥雲館ではショートステイホームにおいて、日常のあらゆる場面におけ



綺麗な小物入れ作りをしています



今日はみなさんと一緒に散歩に出かけています

をさせていただけます。一般的な介護施設の起床時間は7時台ですが、当館では5時から身支度をされる方がいれば、9時過ぎに起きてゆっくりと朝食をとられる方もおられます。

このように、ご本人の「選ぶ」を優先した生活を送っていただくことで、できるだけ施設でも生活習慣を持続できる環境になるように取り組んでいます。また、昨年7月より新館に移転したことを契機に、「ユニットケア」というサービス体制を導入しました。また、住環境の面でも全室個室や家庭浴槽（1人で行ける浴槽）と

いった設備を配置しました。ただ、それらは全て、利用者の皆さまの主体性を引き出すための手段に過ぎません。確かに、「ユニットケア」により、共同生活の規模が小さくなりました（1フロア10人未満）。全室個室によって、その方のプライバシーの確保が進みました。家庭浴槽では、利用者の立場から見直したお風呂に改良されました。これらも主体性を引き出すための工夫のひとつです。

しかし、私たち介護従事者が、利用者の皆さまの生活を、すべて自分たちの都合で進めているのなら、利用者の主体性を引き出せるのでしょうか？ 主体性を引き出すための最も重要な要素は、私たちの介護に臨む意識なのです。利用者の「選ぶ」を大切にしながら、地域の皆さまの在宅介護のお力になれるよう創意工夫に励んでまいります。ショートステイ 主任

渡部 直樹



### 4.5の 奇跡 祥雲館ソフトボールチーム優勝!

「美谷のウィニングキャッチ」。祥雲館で、いまや「江夏の21球」と同じくらい有名な名言。それは、祥雲館ソフトボールチームが8年がかりで辿り着いた優勝の瞬間でした。

去る4月5日に行われた第36回豊能町春季ソフトボール大会。1回戦でファルコンズさん、2回戦でキューリーズさんと当たり、ともに1点差で辛くも勝って駒を進めた決勝戦。相手は強豪ときわ台チームさん。4回を終わって4対12と、いつものように序盤に大差をつけられたチームは早くも意気消沈の諦めムード。そこに山下コーチが「まだよ、まだよ、諦めたらあかんよ!」と気合注入。

チームは終盤、おどろくほどの粘りを見せ、つなぎのバツティングでまさかの8点差を追いつき、バッター川又のセンター前タイムリーヒットで勝ち越しました。そして、最終回の守備。2アウトランナー2塁。奇跡まであと1人。息を飲む静けさの中で、レフト奥に咲いた桜の花びらだけがヒラヒラと舞っていました。

だれもが「自分のところに飛んでこないで」と祈る中、ピッチャー立石が投げた渾身の一球は、バッターのチップ性の小フライを誘い、キャッチャー美谷のミットに納まりました。そして、グラウンド、ベンチに広がる歓喜の輪。輪、輪、閉会式で、優勝カップは永田キャプテンの手にしっかりと収まりました。まさに8年越しの悲願でした。チーム結成以来のさまざまな思いが私の胸に去来しました。練習、ユニフォーム、団結、ビールと焼肉……。本当にすばらしいチームになりました。

最後にになりましたが、かつて弱小チームであった私たちが大会に参加させてくださった、暖かい声掛けやアドバイスをくださった豊能町ソフトボール協会の皆さま、相手チームの皆さま、そしていつもたくさんの応援や協力をくださいました職場の皆さまに感謝申し上げます。ソフトボールばんざい!



## 祥雲館アーカイブ

祥雲館で最近起きたことを紹介します。当館ホームページのInformation欄からの抜粋です。

- ◆2009.4.13(月)
  - デイサービスセンターみずほの外出レクとして『万博公園』へお花見に出かけました。
- ◆2009.4.6(月)～10(金)
  - デイサービスセンターあじさいの外出レクとして、お花見ドライブに出かけました。
- ◆2009.4.7(火)
  - グループホームの外出レクとして、イチゴ狩りに出かけました。
- ◆2009.4.5(日)
  - 祥雲館ソフトボール部が豊能町春季ソフトボール大会にて『優勝』しました。
- ◆2009.4.5(日)
  - 特養ホーム2階の外出レクとして、一庫公園へお花見に出かけました。
- ◆2009.4.3(金)・6(月)
  - 特養ホーム3階の外出レクとして、一庫ダム方面へお花見ドライブに出かけました。
- ◆2009.3.31(火)
  - 職員研修「リスクマネジメント報告会」を実施しました。
- ◆2009.3.30(月)
  - 本館(特養ホーム・デイみずほ)レクレーションとして、職員の演出による『演芸会』を行いました。
- ◆2009.3.29(日)
  - 職員研修「ユニットケア」上野文規先生による介護実技講座(第3回目)を実施しました。
- ◆2009.3.27(金)
  - 消防訓練(本館・新館)を実施しました。
- ◆2009.3.24(火)
  - 吉川保育所園児が新館へ来館し、交流しました。
- ◆2009.3.23(月)
  - 職員研修「ユニットケア」上野文規先生による介護実技講座(第2回目)を実施しました。
- ◆2009.3.21(土)
  - 親睦会「歓送迎会」を行いました。
- ◆2009.3.21(土)
  - 東ときわ台小学校5年生の児童より「手作り雑巾」をいただきました。
- ◆2009.3.14(土)
  - デイサービスセンターみずほにて、おやつレク「桜餅づくり」をしました。
- ◆2009.3.12(木)
  - 新館にて食事レクレーションとして、「寿司ロボ」で寿司を提供しました。
- ◆2009.3.10(火)
  - 職員研修「ユニットケア」上野文規先生による介護実技講座(第1回目)を実施しました。

祥雲館のホームページは <http://www2.gol.com/users/syownkan/>

## 紙ヒコーキ 編集後記

早いもので入社して10年目の春を迎えることができました。この時期になると、自分の入社当時のことをよく思い出します。学生気分のまま入社した自分に、先輩職員・利用者が社会人とは、仕事とはなどを教えて頂きました。その当時はよくわからなかったことも多くなんとなく聞いていたのですが、今ではそのことを思い出し、今の自分ができているかを考えることがあります。

今年入社した職員には先輩から学んだこと、自分なりに考えたことを伝え、今は伝わらなくても5年後、10年後に思い出して後輩に伝えてもらいたいです。(美谷)

次回の発行は平成21年7月12日(日)です

## ユニットケア研修

祥雲館では一部フロアにおいてユニットケアを実施するため、3月に(株)元気の素取締役上野文規先生を講師にお招きし、職員研修を行いました。

上野先生は、三好春樹氏と共に「生活リハビリ」という新しい介護の考え方を提唱し、日本全国で生活リハビリ講座を展開されており、「遊びリセッション」の第一人者として知られています。とても著名な先生の講義を皆で受けることができました。

今回の研修は、今年6月から特養施設の改修するにあたり、ユニットケア(1ユニット12名程度のグループ介護)を導入するための準備として進めました。

ユニットケアでは、少人数単位での生活をするこ

今までより、満足できる環境を提供していきたいと思っています。今後は御利用の方にとだけ満足して生活して頂き、楽しく過ごして頂くことが重要になります。

ただ十人十色というように、どんな生活でも、合う人と合わない人がいます。その中で各々の満足した生活を過ごして頂けるように以下のことを学びました。

①まず、利用者の人生をもっと知ることが大切だということ。

②できることはやって頂き、お手伝いしたいところ、させて頂くことといった自主性に

ついても再度考えていくこと。

③家のようなお風呂に入ったり、トイレを使用するといった普通の生活と、私たちが普段、当たり前に行っていることへの価値を問い直す必要を感じました。

今回の研修で学んだことを職員一人一人が自覚し、利用者の方に今まで以上に安心と満足を目指していきま

